高層の建物と多くの緑を擁する東京

4章

世界都市・東京への飛躍

都市機能の集積と国際競争力の強化［1980年代–2010年代］

国際化や情報化が著しく進展する中、東京は国際都市としての地位を高めていきました。
その一方で、一極集中の弊害が顕在化したため、
目指すべき都市構造として、多心型の都市構造の構築に向けた取組を推進しました。
バブル景気の崩壊後、東京の国際的地位は低迷期に入りました。
21世紀を迎えると、世界的な都市間競争が激化する中で、
新たな都市構造への見直しがなされ、東京の魅力向上に向けた都市づくりが進められました。

【1980年代以降の主な出来事】

昭和57（1982）年 ▶
「東京都長期計画 マイタウン東京―21世紀をめざして」の策定（多心型都市構造の提唱）

昭和61（1986）年 ▶
バブル景気始まる

昭和62（1987）年 ▶
国鉄民営化、JRが発足

平成3（1991）年 ▶
新都庁舎開庁

平成7（1995）年 ▶
阪神・淡路大震災の発生

平成12（2000）年 ▶
「東京構想2000」の公表
（環状メガロポリス構造の提唱）

平成13（2001）年 ▶
「東京の新しい都市づくりビジョン」の策定

平成23（2011）年 ▶
東日本大震災の発生

平成25（2013）年 ▶
第32回オリンピック開催地が東京に決定

平成28（2016）年 ▶
年間訪日外国人観光客数が
2,000万人を突破